

素敵な夜、ボクにください

2007(平成19)年1月12日鑑賞(東映試写室)



監督＝中原俊／出演＝吹石一恵／キム・スンウ／占部房子／関めぐみ／枝元萌／飛坂光輝／木野花（エスピーオー、プログレッシブ ピクチャーズ配給／2007年日本映画／104分）

……カーリング、チーム青森、小野寺歩の名前はトリノ冬季オリンピックで一躍全国区に！ 機を見るに敏なプロデューサーがこれに目をつけたのは当然だが、そこに韓流ドラマの色彩を加えたのは見事な視点！ スポ根ものとせず、ラブコメディ風にしたのも大切なポイントだが、さてその成否は……？ 超自己チューの主人公を吹石一恵が怪演（？）しているが、その恋の行方と目指す夢の行方に注目……？

荒川静香 vs. 「チーム青森」

2006年2月にイタリアのトリノで開催された冬季オリンピックから早くも約1年が経過したが、この大会で日本人としてただ1人金メダルを獲得した女子フィギュア・スケートの荒川静香は、アマチュア競技に終わりを告げ、プロのアイスショー・スケーターに転向したところ、女優業に司会業に今まさに絶頂期……。この荒川静香ほどではないにせよ、突然「カーリング娘」として日本国中から注目されたのが、当初全く期待もされていなかったカーリング競技の「チーム青森」。格別美人ではないものの、一点を見据え、集中した姿でストーンを滑らせていく小野寺歩選手に、あなたもクラクラしたのでは……？

そんなトリノオリンピックのカーリング競技の熱が冷めないうちに、また最近落ち目となっている韓流ブームが終わってしまわないうちにという皮算用で企画された（？）のが、何とも色っぽいタイトルのこの映画だが……。

こんな自己チュー女が青森出身者……？

「チーム青森」の小野寺歩を見ていると、雪深い青森の女性は忍耐強く礼儀正しい女性ばかりかナと思ってしまいますが、この映画の主人公木村いづみ（吹石一恵）は東京で女優をしているものの、女優とは名ばかりで、今回も2時間ドラマの死体役……。そんな役について責任者に文句をつけると、逆に「あんたレベルの子はゴロゴロいるのよね」と言い返される始末……。もちろんこの時点で、いづみとカーリングの接点は何もなし！ 面白いのは、いづみは陽気で前向き、そして何事も頑張り屋という長所を持っているものの、小野寺と同じ青森出身ながらその自己チューぶりがすごいこと。

傷心のいづみが突然目の前で見たのは、あの憧れの韓流スター、カン・スヒョン（キム・スンウ）……。？「カン・スヒョンよね！」と迫るいづみに対して、彼は片言の日本語で「素敵なお夜、ボクにください」と口説き文句を放ったから、いづみはイチコロ……。マスコミの目を避けてしげ込んだ豪華なラブホテルの中で、いづみは夢のような素敵なお夜を過ごすことに……。ベッドの中の睦言で交わす約束は、もちろんスヒョンとの映画での共演。「これで私もたちまち有名女優……。そう単純に信じるところが、いづみのバカなところであり、いいところ……。？

カン・スヒョン=イ・ジンイル、それともカン・スヒョン≠イ・ジンイル……。？

映画の冒頭、なぜか韓国での男子カーリングの試合のシーンが登場する。チームの大黒柱であるイ・ジンイル（キム・スンウ）は、チームメイトの「ここは同点狙い」とのアドバイスを無視して、「断固逆転を狙う」「俺が失敗すると思うのか！」と宣言したものの、結果は惨めな敗北。監督からその自信過剰ぶりを指摘され、「お前はチームにはいない」と宣告されたが、チームメイトからも彼を弁護する声が出ない有り様……。

そんな傷心の彼は今、気分転換のため、日本の青森に留学している後輩パク・ファンソク（飛坂光輝）の元を訪れていた。ところが、何とこのジンイルは韓国でも、惨めな敗北後やけ酒を飲んで眠りこけていても、店の人たちから「この人、あのカン・スヒョンじゃないの？」と言われるほど、スヒョンのそっくり人間

……。違うのはただ1つ、スヒョンにはホクロがあるのにジンイルにはそれがないこと。すると、いづみがスヒョンだと信じ、既にベッドを共にしてしまったあの男は、ひょっとしてスヒョンではなくジンイル……？

結婚宣言まででしたが……？

東京のラブホテルで夢のような一夜を過ごしたいづみが目を覚ますと、既にジンイルはホテルから姿を消していた。普通はそれで「騙されたのでは？」と考えるはずだが、何事にも夢を持ち前向きないづみは、日本のガイド本に挟まれてあった青森行きのチケットを見て、「故郷の青森で待っている。迎えに行くから」とのメッセージだと早合点し、直ちに青森の実家へ帰ることに。驚いたのは、青森で旅館を経営している母親の清美（木野花）や妹のひかり（関めぐみ）たち。そのうえ、いづみから「私結婚するの。相手は韓流スターのスヒョンよ」という爆弾発言が……。

折しも、いづみの幼なじみで今は市役所で働いている裕子（占部房子）もスヒョンの大ファンで、韓流ドラマから学んだハングル語も今やかなりのレベル……？ そんな裕子から「スヒョンが近くの焼き肉屋にいる！」とのビックリ情報もたらされた。

ジンイルは今、後輩のファンソクと再会し、易々とベッドを共にしてくれた東京の開放的なバカ女の話に盛り上がり焼き肉を食べようとしているところ。そんなところに駆けつけたいづみと裕子、そして妹のひかり、さらに今は子持ちとなって市場で働いている幼なじみの聡子（枝元萌）だったが、「あっ、この人ホクロがない」という裕子のひと言で、ジンイルはあくまでジンイルであって、スヒョンではないことが判明。こりゃ、つかみ合いのケンカになってもおかしくない最悪の状況だが……。

スヒョンとの共演から180度転換し、北京オリンピックの夢へ……

この映画は、2009年から実施される裁判員制度の啓蒙のために『12人の優しい日本人』（92年）という実に有意義な映画をつくった中原俊監督の作品だが、「監督初のラブ・コメディに挑戦」というもの。スヒョンとの共演による大女優の夢

が絶たれたいづみは大ショックだが、ジンイルがカーリングの大選手であることを知っているファンソクから仲直りの酒の席で、「カーリングで北京オリンピックを目指したら……」と提案されると、それに易々と乗ってしまうところがまさにコメディ……。盛り上がった酒の席はそれでいいのだが、翌日さっそくカーリング場への集合を命ずるいづみからの電話に、「えっ、本気だったの?」と裕子、ひかり、聡子はビックリ。しかし、いづみは本気も本気……。もちろん、いづみと大ゲンカしたカーリングの大選手ジンイルはハナからコーチをするつもりなどないが、それに代わってファンソクがまったくの初心者である4人に対してまめにコーチ役を……。

ここからは、観客もカーリングのルールの勉強を兼ねたカーリング教室の始まり……。イチからの手ほどき、助役ファミリーチームとの対決、そしてピンクのユニフォームを新調しての本格的なオリンピック代表チーム選出のための予選への参加と物語は続いていく。さあ、その初戦は……? そして、その後次々と続く北京オリンピックへの道のりは……? そんなマンガみたいな物語が、カーリングの試合を通じて、そしてジンイルといづみ、ファンソクと裕子との恋模様の展開を通じて描かれていくが……。

再度の変わり身に啞然……?

細かいルールは別として、カーリングの基本ルール自体は単純なもので、いかに円の中心にストーンを置くかを競う競技……。もっとも、ブラシで掃きながら目標地点までストーンを滑らせていくのは、かなり難しそう。あまりに自己チューないづみの態度によっていったんはバラバラになりながらも、4人組はジンイルの特訓といづみの意欲によって(?)、再度結集。そして、いづみの最終回の奇蹟のプレーによって見事に初戦を突破したから、今や4人組は意気揚々……。

ところが、そんな祝勝会の席でいづみのケイタイが鳴った。その電話は、何と東京でいづみの映画主演を伝えるものだった。さあ、これは大変! カーリングによる北京オリンピックへの夢をとるのか、それとも主演女優の道をとるのかというハムレット的状况になったいづみの悩みは……? そう考えながら観ていると、実はそれは全くのいらん心配だった。つまり、いづみはここでも変わり身が

早く、「主演で映画に出ることになったから、明日東京へ帰る」「試合は3人でもできるでしょう。頑張ってね」というあきれたもの……。これには3人の仲間はもちろん、ジンイルとファンソクも哑然……。「それはないだろう」と強く迫るジンイルを軽くいなしたいづみの頭の中は、既に主演女優の夢でいっぱい……？

何ゴトも正確な通訳が大切……

この物語では、ジンイルへの通訳はファンソクが、そしていづみへの通訳は裕子がやっていたが、言葉のわからない者同士の間関係性をうまくいかせるか、ダメにさせるかについて、通訳の正確性が大きくモノを言うのは当然。ところが、ある場面では善意で、ある場面では悪意で、あえて逆の言葉に通訳していたのがファンソクと裕子。すなわち、ファンソクはいづみのことをボロクソに言うジンイルの言葉を善意で正反対に通訳していたが、ジンイルに対して好意を持ちつつあった裕子は、ジンイルがいづみに対して愛の告白めいた言葉をかけたことについては、悪意（嫉妬心？）で正反対の通訳を……。

このようにこの物語においては、男女間の気持の動きをはかるについて、通訳ぶりが大きなポイントになるが、ファンソクと裕子がすんなりといいカップルになってからは、2人の通訳は突然正確なものに……？ そうなれば、ジンイルがいづみを思う気持と、いづみがジンイルを思う気持がいつか、どこかで実を結ぶはず……？

そんな風に思っていたが、今いづみは東京行きの新幹線の中。しかし、いづみによってカーリングの夢を裏切られたはずの聡子からお別れに届けられたおにぎりを食べながら、いづみの目に涙が……。こりゃひょっとして、いづみは再度……？

ラブコメの女王の座を狙っては……？

この映画でいづみ役を演ずる吹石一恵は、『魔界転生』（03年）、『明日の記憶』（06年）、『雪に願うこと』（06年）、『手紙』（06年）、『バブルへGO!! タイムマシンはドラム式』（06年）などに出演しているが、私には特に印象に残る女優では

なかった。ところが、私が観ていない『紀子の食卓』(06年)での演技が評価され、韓国のプチョン国際ファンタスティック映画祭で最優秀主演女優賞を受賞したとのこと。そんな吹石一恵が、この映画では超自己チューの主人公を見事に怪演!

観客として観ていても、特に前半は正直あなたも「イヤな女だナ」「かなわん女だナ」と思ったはず……? ところが、ラストに近づくとつれて、いづみはいづみなりに真剣に夢に向かって努力していることが見えてくるから不思議……。また男性観についても、普通の女の子並みのかわいい面を持ち合わせていることが、少しずつわかってくるはず……。

ラブコメの女王といえば、ハリウッドでは断然メグ・ライアンだが、この映画での吹石一恵のラブコメにピッタリの怪演を見ていると、スケールは違うものの、彼女は日本版ラブコメの女王の夢に向かって頑張ったらしいのでは……? バカバカしい映画だと思いつつ、ホッとするようなラストに十分納得……。

2007(平成19)年1月15日記

ミニコラム

イチローの「素敵な夜」に拍手!

今年の日本人大リーガーは、松坂大輔を筆頭に大活躍中。彼らの先輩として、また高い理想を目指す野球人として孤高の道を歩んでいるのがイチローだ。近時マスコミへの露出が増えたのは、そろそろ引退後の生活を模索中かと考えていたが、それは大間違い。イチローは大リーグのオールスター戦で、球宴初の逆転2点ランニングホームランを放ち、最優秀選手(MVP)に輝いた。もちろん日本人初! 彼は落合監督と1、2を争うオレ流(?)だから、自分自身の喜びを爆発させる姿は少なく、そんなシーンはWBCで王ジ

ャパンが優勝した時くらい? しかし、さすがに7月10日(日本時間11日)夜だけは大きい。上機嫌で「この球宴を一生忘れることはないと思う」と語った。大リーグ7年目でイチローにとって最高の夜が訪れたわけだが、これは日々たゆまない努力の賜物。

ところで、あなたにとって最高の夜はいつ、どんな形で? それを安易に期待してはダメ。なぜならそれは、イチローと同じく、すべてあなたの努力次第で訪れるものなのだから……。

2007(平成19)年7月13日